

自然塗料

	原料	油の種類	性質	特徴
え ゆ 荏油	シソ科 荏胡麻の種子	乾性油	木の塗装に昔から使われる油。酸化重合により、木の表面に硬い膜を貼る。耐水性が強く、防腐効果を高める。昔から、防水のため、提灯、番傘にも塗られた。	粘度は中くらい、臭いはやや香ばしく使いやすい。京都では伝統的に最も良く使われる油。
きり ゆ 桐油	油桐の種子			粘度が高く、硬くて透明感のある膜をはる。冬場に塗る時には伸びにくい。表面は艶が少なく、少しざらつく。臭いがややきつい。(2週間ほどで消える)
あまに ゆ 亜麻仁油	アマの種子			粘度は低く、サラッとしている。紫外線に当たると経時的に茶色く焼けやすい。
なたねあぶら 菜種油	一年草のアブラナ科 菜種の種子	半乾性油	乾燥に時間がかかる。木の中に浸透し、手入れや艶出しに使う。	食用としても使われ、手に入れやすい油。すずが出にくいことから、歴史的にお燈明用油として使用された。
つばきあぶら 椿油	やぶつばき 藪椿の種子	不乾性油	乾燥しにくい油。木に塗るとしっとりした手触りになり、高級家具などに使われる。	昔から女性の髪、肌の手入れに使われる高級油。オレイン酸含有率が高く、皮脂に近い性質があり、酸化しにくく、安定性が高い。

	主成分	性質	特徴
かきしぶ 柿渋	高分子 タンニン	水溶性で、防腐・防虫・防水・抗菌効果がある。塗ってから2ヶ月ほどで発色が始まり、1年間ほどかけて濃さがましていく。色は、塗料の濃度によって淡褐色～濃褐色に発色する。強い紫外線に長期にわたりさらされると黒色になる。	柿渋は木・布・紙等の染料だけではなく、やけど・しもやけなどの薬としても使われた。また、繊維を強くする性質があるため、魚網に塗って使われている。
ベンガラ	酸化第二鉄	着色力が大きく、耐熱性・耐水性・耐光性・耐酸性・耐アルカリ性に優れている。	インドのベンガル地方に天然の酸化鉄が産出し、これが我が国に輸入されたことから「ベンガラ」と呼ばれたと言う説が有力。日本ではその昔岡山県他で産出し、大きな産業となった。